

福井県の取組事例紹介

地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）



令和7年12月
福井県

包括的民間委託

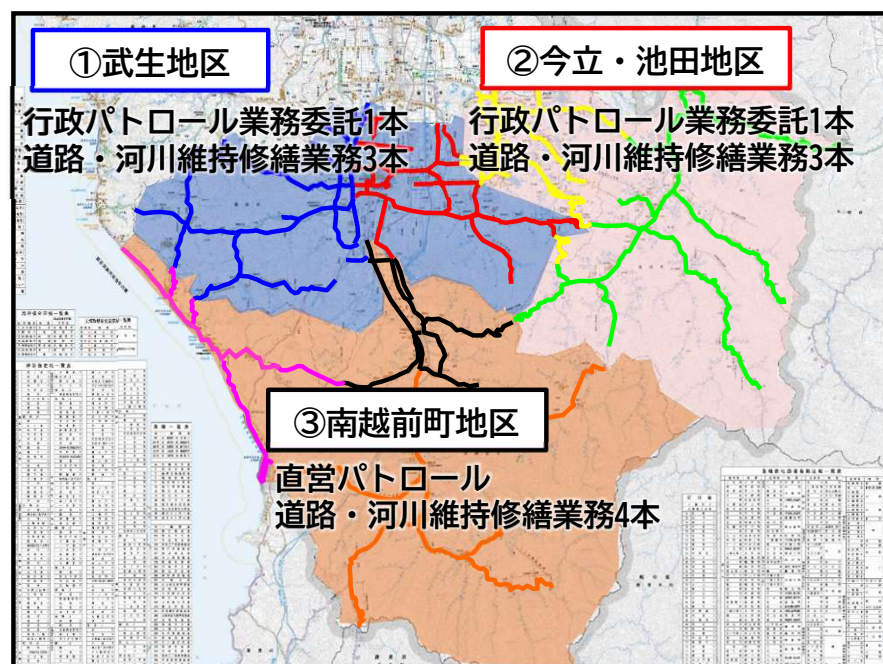
【群マネ（他分野連携）】

○丹南土木事務所において、包括的民間委託の導入を進めている。

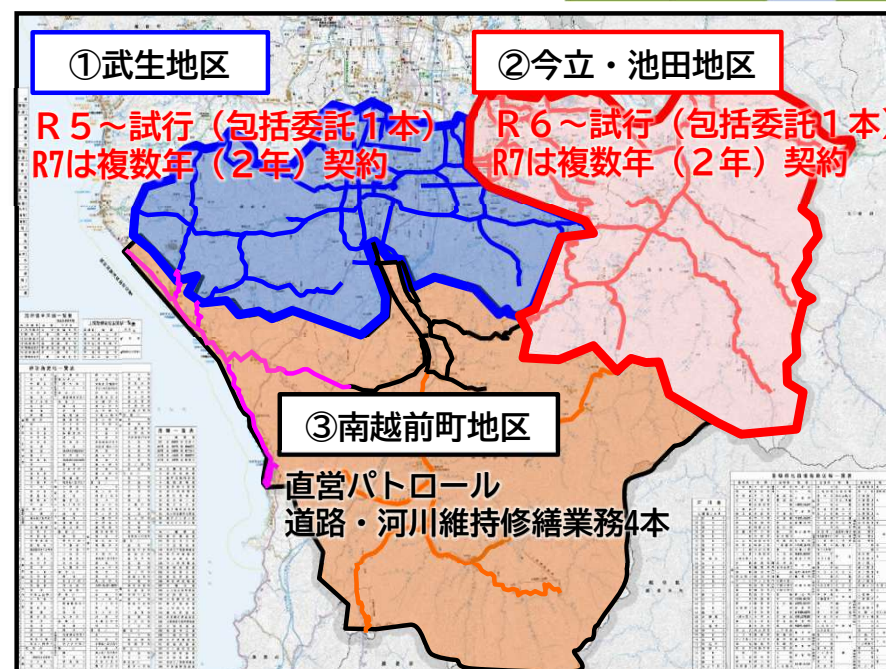
- ・令和5年度より**武生地区**において包括的民間委託を導入
(行政パトロール業務委託と、複数の道路・河川維持修繕業務委託を一括で発注)
- ・令和6年度からは**今立・池田地区**にも拡大
- ・令和7年度からは**複数年契約（2か年）**を導入



これまで（令和4年以前）



令和7年現在



<導入効果>

- ・複数に分かれていた業務が1つになることで**対応が迅速化**
- ・複数年契約により、スケールメリットによる**受注者の経営の安定化や設備投資意欲の向上**

橋梁の点検・判定の補助、データ管理支援

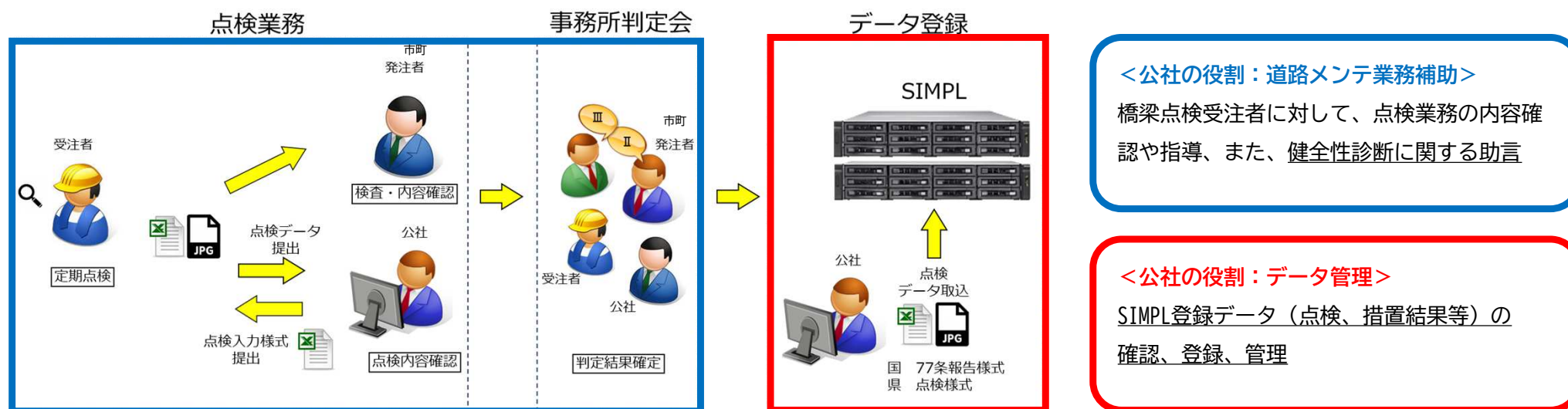
【群マネ（データの束）】

○福井県では、7市町※¹⁾において県の外郭団体（建設技術公社）による
「橋梁の点検・判定の補助」※²⁾ および「データ管理」※³⁾を実施している。

※1) 敦賀市、小浜市、大野市、池田町、越前町、おおい町、若狭町

※2) 橋梁点検結果をそのままデータベースに入力するのではなく、判定に間違いがないか市町ごとに判定内容に差異が生じていないかを確認する目的で『判定会』を開催し、その中で、県と同じレベルで判断している。

※3) 点検データをはじめ、措置結果等（診断、調査、設計、補修工事）の内容を県が導入しているインフラ管理プラットフォーム（SIMPL：次頁参照）へ保存する作業を代行し、市町はクラウド上でいつでも安心して内容を確認できる。



全17市町への職員派遣

【群マネ（技術者の束）】

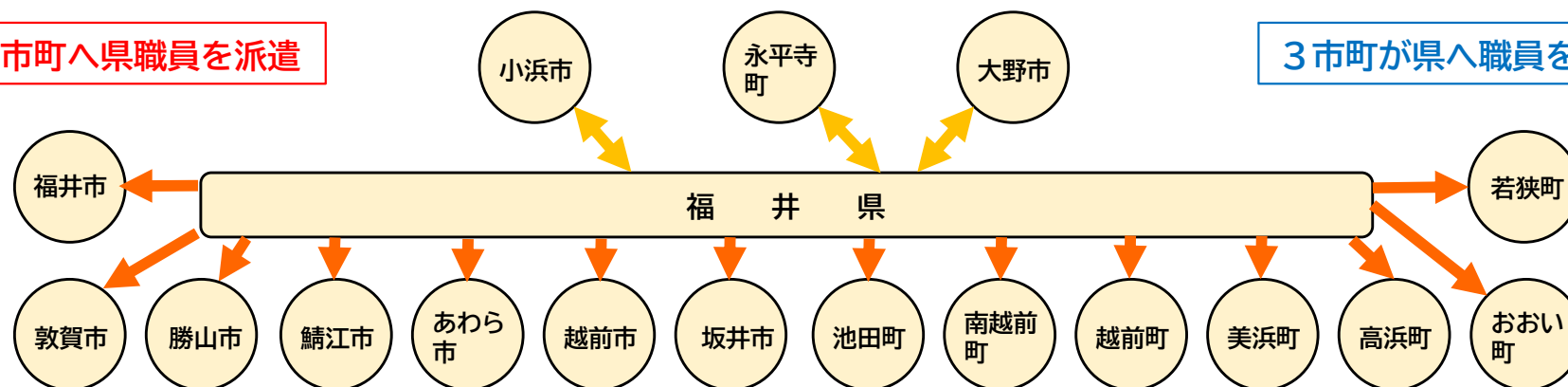
○福井県では、全17市町へ県職員の派遣を実施し、直接的な技術支援を実施。
また、3市町が県へ職員を派遣しており、県の業務内容を学ぶことで、技術力向上を図っている。

【効果】 県と市町が連携を強化し、より広域的な視点でのインフラ整備や地域課題の解決が可能

➡ ○市町の技術力向上 ○広域的な連携強化 ○住民サービス向上

全17市町へ県職員を派遣

3市町が県へ職員を派遣



	県⇒市町	市町⇒県
福井市	1	
敦賀市	2	
小浜市	2	1
大野市	2	1
勝山市	1	
鯖江市	1	
あわら市	1	
越前市	1	
坂井市	1	

	県⇒市町	市町⇒県
永平寺町	1	1
池田町	1	
南越前町	1	
越前町	1	
美浜町	1	
高浜町	1	
おおい町	1	
若狭町	1	
合計	20 (全17市町)	3 (3市町)

メンテナンス研修の実施

【群マネ（技術者の束）】

○自治体職員（国・県・市町）等を対象にしたメンテナンス技術者育成のための研修を毎年複数回実施

令和7年度福井県道路メンテナンス研修計画（案）

回数 時期	内 容	対象者	講 師	備 考
第1回 R7.6.27	メンテナンスの基礎 ・コンクリート構造物の劣化 ・鋼構造物の劣化 ・詳細調査編に基づく調査内容	・点検、補修業務担当者	・福井県コンクリート診断士会	・対面(+Web) 福井土木事務所 56名参加
第2回 R7.7.23	新技術採用現場見学 （一般県道 赤礁崎公園線 志摩橋） ・簡易内部圧入工（亜硝酸リチウム）リハビリカプセル工法	・点検、補修業務担当者	・福井県小浜土木事務所 ・福井県道路構造物保全協会	・現場 おおい町大見 27名参加
第3回 R7.8.27	補修・補強事例集に基づく事例説明	・点検、補修業務担当者	・福井県コンクリート診断士会	・対面(+Web) 福井土木事務所 65名参加
第4回 R7.9.26	断面修復工体験会 （主要地方道 福井四ヶ浦線 魚見二号橋） ・断面修復工事における新技術紹介	・点検、補修業務担当者	・丹南土木事務所鯖江丹生土木部 ・福井県道路構造物保全協会	・現場 越前町梅浦 37名参加
第5回 R7.10.31	舗装メンテナンスの基礎 ・アスファルト舗装の損傷と原因および調査診断 ・福井県の舗装維持管理ガイドライン等について ・アスファルト舗装の設計および長寿命化に資する工法	・点検、補修業務担当者	・（一社）福井県舗装協会 ・福井県工業技術センター ・福井県道路保全課	・対面(+Web) 福井土木事務所 56名参加
第6回 R7.11.28	新技術採用現場見学 （一般県道 上大納下山線 谷戸ロトンネル） ・ガイナSHシートボード工法	・点検、補修業務担当者	・福井県奥越土木事務所 ・福井県道路構造物保全協会	・現場 大野市上大納 12名参加
第7回 R7.12.19	橋梁に関する技術講習会 ・鋼橋の補修、補強における留意点 ・床版取替え施工の手引き	・点検、補修業務担当者	・（一社）日本橋梁建設協会	・対面(+Web) 福井県立図書館 29名参加
第8回 2月頃	PC構造物について ・PC橋の施工技術 ・PC構造物の維持保全について ・PC構造の診断、対策事例	・点検、補修業務担当者	・（一社）PC建設業協会・北陸支部	・中小企業産業大学校
		追加予定		



メンテナンス基礎
(R7.6.27 座学 調査器具の紹介など)



新技術紹介（リハビリカプセル工法）
(R7.7.23 志摩橋)



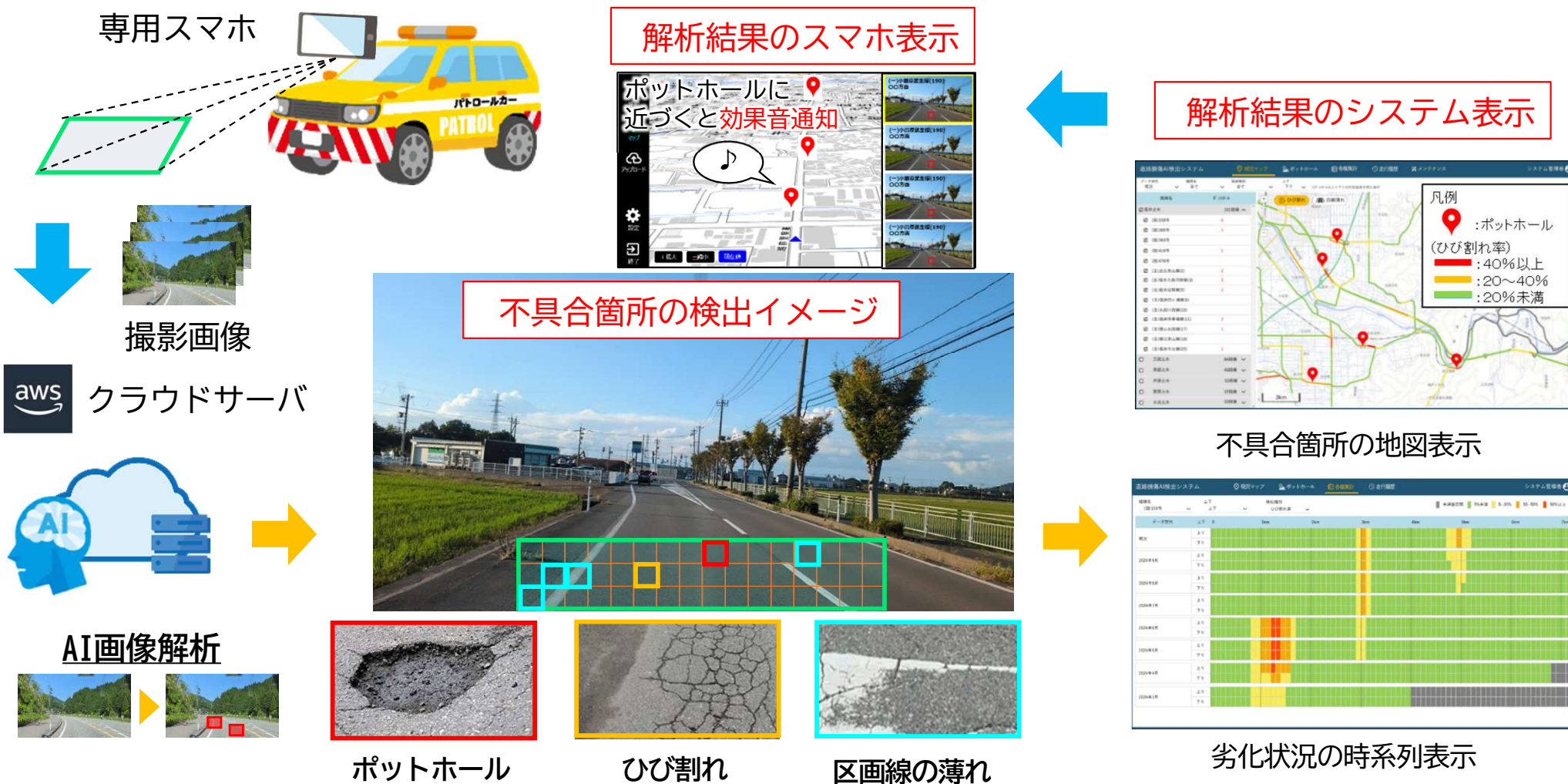
断面修復工体験会
(R7.9.26 魚見二号橋)

システム連携（路面変状AI検出システム）

【群マネ（データの束）】

○パトロール車に設置したスマートフォンによる撮影画像から、**AI画像解析技術**を活用。**道路上の不具合箇所**（ポットホール、ひび割れ、区画線の薄れ）を**自動で検出・解析**し、その結果を「福井県道路管理情報システム」の**地図上で可視化** ⇒ パトロールや道路補修などの業務効率化を図る。

R7.4より県内全土木事務所で運用開始 ⇒ **本システムを市町との共同利用することによる支援を検討中**

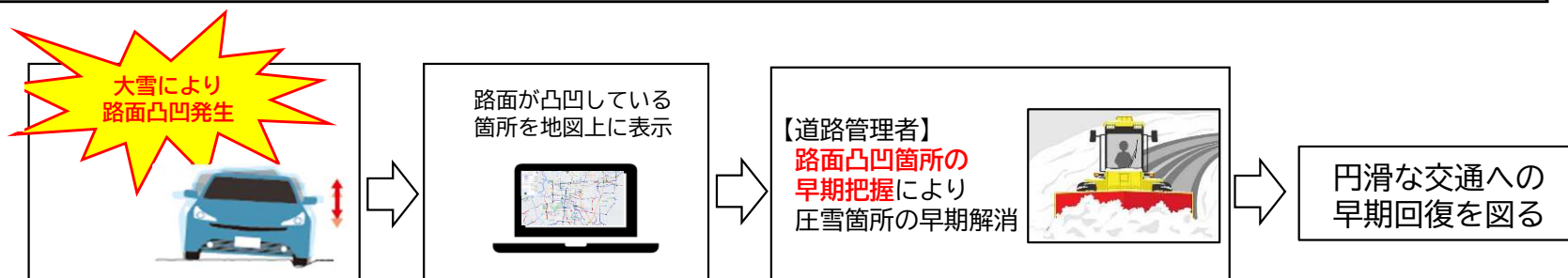


除雪状況の見える化

【群マネ（データの束）】

- HP（[みち情報ネットふくい](#)）上で県・全17市町の除雪状況・交通状況を公開。
また、カメラ画像による道路状況を一元的に確認可能。
大雪により交通障害の恐れがある場合に、路面状況（路面に凹凸がある地点）の情報を提供。

○道路管理者の対応



○県民へのメッセージ 「大雪時は、おうち時間」

・・・路面状況について情報提供し、不要不急の通行を減らし、早期の除雪完了につなげる



スマートフォン対応

東北大学（IMC）との連携

【群マネ（学の束）】

○東北大学のインフラ・マネジメント研究センターと連携して、インフラマネジメントに関する取組を実施。

【取組内容】

EBPMを活用した緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度立案の検討

【実施内容】

- 「緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度の計画立案」
- ・ 施策実施を支援するためのガイドライン（マニュアル）作成
 - ・ データ分析ツール（**GIS分析と維持管理システムの連携**）の開発
- ⇒ 平時の予防対策だけでなく、
災害後の復旧優先順位にも適用していく。

【EBPMとは】

データ分析による客観的な
情報に基づく政策立案の仕組み

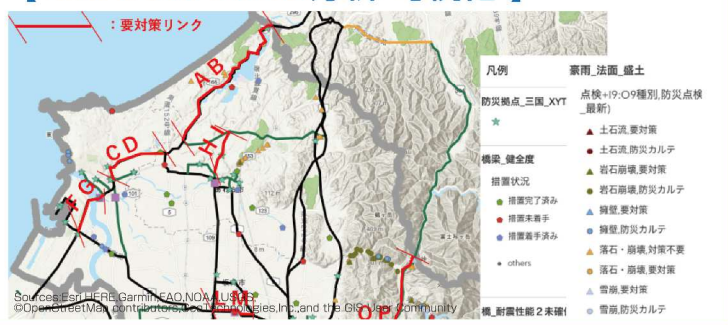
個人の知識や経験などの
主観的な情報

エピソード・ベース

データの分析・解析を経て
導き出された客観的な情報

エビデンス・ベース

【GISシステムにて分析・可視化】



GISの各リンク（道路）に道路防災対策状況や橋梁耐震補強状況などの情報を入れて点数化し、災害時における被災リスク箇所の優先順位を検討。

●各地域の取組例



東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター(IMC)

【概要】東北大学IMCでは、老朽化が進むインフラを対象に、EBPM(エビデンスに基づく政策立案)に基づく維持管理の普及に取り組んでいます。特に、予算縮小など多様な課題を抱える地方自治体と連携し、インフラが地域社会に果たす役割に応じて、管理水準や優先順位を合理的に設定する手法の実装を支援しています。



地方のインフラを守り、適切・確実な維持管理を普及発展させるために、自治体支援、研究や技術開発、技術者の育成を推進しています。

URL: <https://imc-tohoku.org/>

【支援内容】

資格 表彰 研修・交流・講演・助言 新技術のマッチング・情報共有

自治体支援のフローと事例共有・情報交換の取り組みの例
自治体の課題・ニーズのヒアリング

EBPMを用いた維持管理の実装

事例の共有・情報交換

自治体への視察訪問

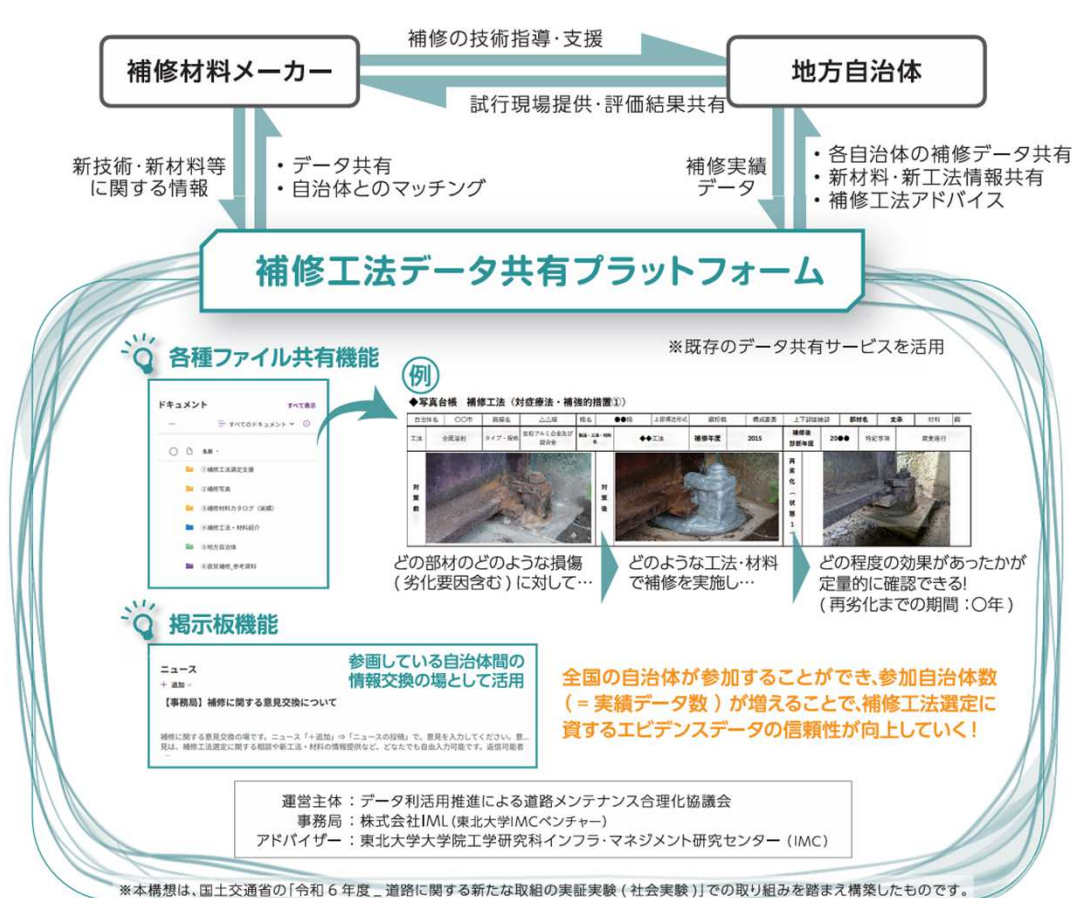
自治体の事例発表

自治体	事例発表
山形県上山町	道路特性に応じたエビデンスに基づく道路維持管理の取り組み
山形県南陽市	山形県南陽市におけるEBPMの取り組み
茨城県牛久市	EBPMを活用した道路管理手法の検討 ～道路と下水道の日常点検一元化を視野に入れて～
秋田県大仙市	EBPMを活用した公園の維持管理の検討
福井県	EBPMを活用した緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策後継者育成の検討

群マネの手引きVer. 1に取組例として紹介 (p56)

補修工法データ共有プラットフォームへの参加 【群マネ（データの束）】

○補修データ共有プラットフォーム（R7.7正式運用開始）に参画し、補修効果含む補修実績データを自治体間で共有することで、損傷の状態に応じて、自治体の管理水準に見合う適切な補修工法・材料を検索・選定



【特徴】

東北大学IMCのアドバイザーを含む専門技術者による統一した見解で、新技術を含む各種工法・材料の実構造物における「補修の効果」を評価し、損傷種類や劣化要因に応じた適切な工法・材料を検索しやすい形に整理した「補修工法選定支援情報」をプラットフォーム上で共有

SBIR（国土交通省建設技術研究開発助成制度）の成果の一つ

【補修工法選定支援情報】（将来イメージ）

- 橋梁諸元、環境条件
- 点検・診断時に記録される損傷に関する情報（損傷種類・位置、劣化要因、進行性 等）

絞込

	工法名（材料）	工法採用実績 割合	補修効果（再劣化割合）			（参考） 単価
			5年後	10年後	15年後	
①	断面修復工法 （ポリマーセメントモルタル）	5%	5%	25%	40%	200,000円/m ² （t=5cm）
②	断面修復工法 （塩分吸着剤入り）	70%	0%	3%	5%	250,000円/m ² （t=5cm）
③	防錆スプレー （ローバル）	15%	30%	50%	90%	5,000円/m ²
④	防錆スプレー （かため太郎）	10%	5%	30%	80%	4,000円/m ²

参画による メリット

- 多くの自治体の補修実績データ、補修効果データを共有・閲覧可能
- 掲示板機能を使った参画自治体同士での情報交換
- 補修に関する技術相談対応（事務局、アドバイザー）
- 補修に関する最新情報共有、新材料の試行工事、技術指導等のマッチング

R7.12現在、福井県と永平寺町が参加